



北小だより

学 び い っ ぱ い
や さ し さ い っ ぱ い
元 気 い っ ぱ い

令和7年6月12日（木）

発行者：福島市立北沢又小学校長 高橋 哲也

“やさしさ いっぱい”の子どもたち

北沢又小学校の3つの目標“まなびいっぱい”“やさしさいっぱい”“げんきいっぱい”、本号では“やさしさいっぱい”にスポットを当てました。

北小では、今年度も「どの子にも居場所がある“やさしさいっぱい”の学級、学校づくり」を大切にしています。

そんな学級、学校につながる子どもたちのやさしい姿を目にしましたので、紹介します。

□ 毎朝、弟さんや妹さんと手をつないで登校する子どもたちがいます。弟さんも妹さんも、とても安心した表情で元気に登校できています。

やさしいお兄さん、お姉さん、いつもありがとう。

（お子様の登校に付き添ってくださる保護者の皆様にも感謝しています。本当にありがとうございます。）

□ 1年生は、登校後のあさがおへの水やりに一生懸命です。そんな1年生の水やりを手伝う6年生の姿がありました。

やさしく手をひく6年生の気持ちが、とてもうれしいです。

□ 給食の後片付け、配膳室の近くの廊下で、ある学年の給食当番さんが、誤って食缶をひっくり返してしまいました。廊下には、食べきれずに食缶にもどしたご飯が散らばってしまいました。すると、近くにいた3年生の当番さんたちが、すぐに集め方を手伝ってくれたのです。あっという間に散らばったご飯は元の食缶へ。

進んで手伝ってくれた3年生の当番さん、助け合いの気持ちが立派ですね。

□ ある日、何気なく昇降口の下足箱に目をやると、5年生、6年生の靴の入れ方がきれいで感心しました。きちんとかかどがそろえられていて、気持ちがよかったです。

このようなことが普通にできる5・6年生、「さすがだなあ。」とうれしくなりました。

日常の何気ないことかもしれませんが、このような姿の広がり“やさしさいっぱいの学級、学校”につながります。

子どもたちの“やさしさ”を、どんどん広めていきたいと思っています。

ある朝、校門に立っていると「小麦はいかがですか？」と、低学年の女の子が笑顔で手渡してくれました。「ホントに小麦みたいだね。ありがとう！」と受け取り、あとから調べてみると「ハルガヤ」というイネ科の植物のようでした。

うれしいプレゼントのおかげで、私も勉強になりました(^ ^)

